

5-4 大館北地域

(1) 地域の現況

地域の概要	
面積	104.60km ² 市全体の11%
人口	11,168人、市全体の15% ※2015(平成27)年国勢調査
世帯数	4,063世帯、市全体の14% ※2015(平成27)年国勢調査
15年間の人口増減	2,485人の減少(18%減) 2000(平成12)年13,653人から 2015(平成27)年11,168人へ ※国勢調査



地域を代表する主な施設等	
施設等	大館郷土博物館、釈迦内体育館、花岡体育館、花岡総合スポーツ公園、花矢図書館、鳥潟会館、釈迦内出張所、花岡出張所、矢立出張所、地域包括支援センター神山荘、道の駅やたて峠
駅	白沢駅、陣場駅(JR奥羽本線)
医療施設	—
学校	釈迦内小学校、花岡小学校、矢立小学校、北陽中学校、国際情報学院中学校・高等学校
工業団地	釈迦内産業団地、花岡工業団地、花岡第二工業団地
公園緑地	十瀬野公園墓地、大館記念公園、高館公園
景観	長走風穴高山植物群落、芝谷地湿原植物群落、秋田杉天然林、矢立峠、男神山、女神山、城ヶ森、獅子ヶ森、大山

大館北地域は、市北部に位置し、北側が青森県に隣接する地域です。面積は104.60km²で、市全体の11%を占めています。

北部から南部には一級河川米代川の支流である下内川が流れ、粕田川・大森川・花岡川等が流れています。東西を山地に囲まれ、北部は谷状の地形となっており、南部の平地は住宅地や農用地として利用されています。平地の一部は用途地域に指定され、大館東地域と連続した市街地を形成しています。

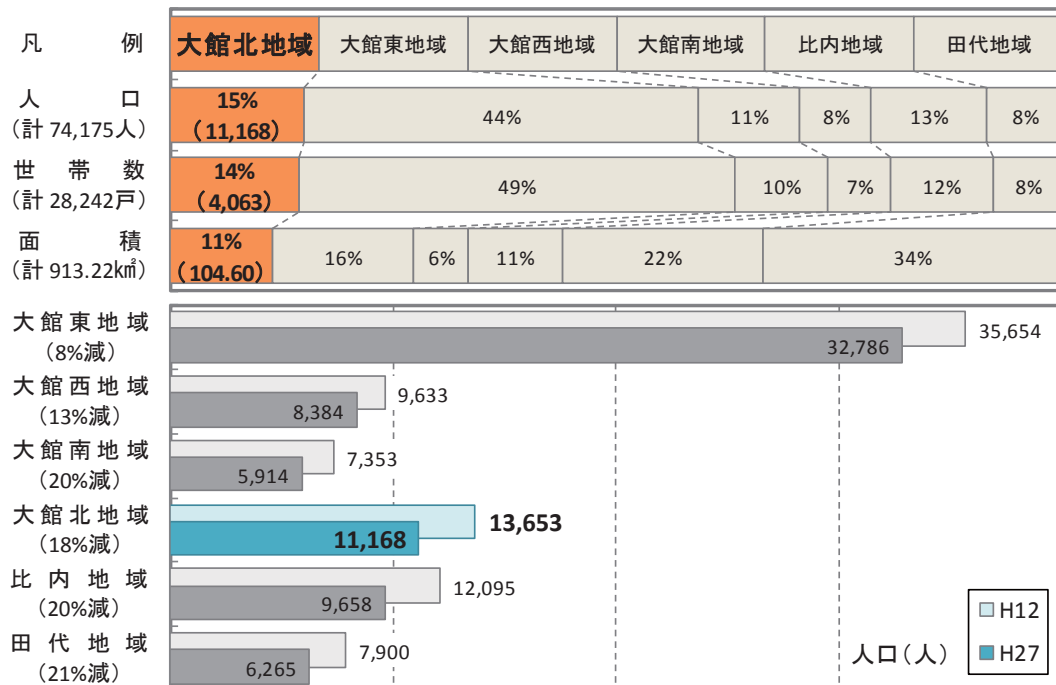
大館北ICの利便性を活かした産業の振興が推進されており、秋田杉天然林等の豊かな自然環境は県を代表する資源となっています。

【土地利用】

- 東西・北部の山地部は森林で、南部や北部の谷間の平地部が宅地や農用地として利用されています。
- 南部は大館東地域と連続した市街地を形成し、用途地域に指定されています。
- 南西部は鉱山開発の歴史があり、鉱山関連の土地が工業団地や宅地に転用されたことから、ある程度のまとまった宅地を形成しています。
- 工業団地として、釈迦内産業団地、花岡・花岡第二工業団地が形成されています。

【人口・世帯】

- 人口 11,168 人で本市の 15%、世帯数 4,063 世帯で本市の 14% を占めており、大館東地域に次ぐ、第二位の人口・世帯規模となっています。1 世帯当たりの人員は、2.7 人となっています。
- 2000（平成 12）年からの人口減少率は約 18% であり、約 2,500 人減少しています。



資料：人口・世帯…2000（平成 12）年、2015（平成 27）年 国勢調査
面積…2014（平成 26）年 10 月 1 日 GIS・国土の情報（全国都道府県市区町村の面積）
※端数の処理により、見かけ上の合計が 100% とならない場合があります。

【文化・風景・特産物】

- 長走風穴高山植物群落や芝谷地湿原植物群落等が国の天然記念物として指定され、矢立廃寺跡の県指定史跡が立地しています。
- 男神山、女神山、城ヶ森、獅子ヶ森、大山等の優れた山地景観があり、身近な風景のシンボルとして地域住民に親しまれています。

【観光レクリエーション】

- 日景温泉や矢立ハイツ等の温泉保養施設、道の駅やたて峠が北端部に立地しています。
- 明治初期にイギリスの旅行家イザベラ・バードが通過した記録が残る矢立峠について、遊歩道を整備し、資源の保全・活用を行っています。

- 長走風穴高山植物群落や芝谷地湿原植物群落、秋田杉天然林等が、国道7号沿いに分布し、アクセスのしやすい自然観光資源となっています。
- 地域の著名人の生家で、京風の情緒豊かな庭園を有する県指定文化財鳥潟会館が観光資源となっています。
- 花岡球場や花岡・釈迦内体育館等は、地域住民のレクリエーション活動の場として利用されています。

【主要公共施設】

- 中央部西側に市営住宅が集積するほか、国際情報学院中学校・高等学校、花岡総合スポーツ公園、高齢者福祉施設も集積しています。
- 中央部西側には花岡事件の慰霊碑がある十瀬野公園墓地があります。
- 南西部にし尿処理場や粗大ごみ処理場が配置されているほか、大館東地域に隣接して大館市公設総合地方卸市場が立地しています。
- 犬都記念公園は、緑に囲まれ広々とした環境でドッグランとして利用されています。
- 釈迦内PAでは、市内観光地を巡るツアー及び周遊バスによる社会実験が行われる等、交流人口拡大に向けた取り組みが行われています。

【交通基盤】

- JR奥羽本線が国道7号と並走しており、白沢駅、陣場駅の2つの駅が立地しています。
- 秋田県の主要幹線道路でもある国道7号が縦断しています。大館北地域と田代地域とを結ぶ(主)白沢田代線、花岡地区と白沢地区を結ぶ釈迦内花岡白沢線が幹線道路となっています。
- 日本海沿岸東北自動車道が整備され、大館北ICが供用し、高速交通の確保、周辺の利便性向上等の効果が期待されています。
- 大館北ICの供用や釈迦内地区における道路拡幅等の整備により、国道7号の交通機能が強化されつつあります。
- 老朽化が進行していた国道7号の白沢跨線橋の架け替えを実施しています。
- 日景温泉とつながる日景橋の補修が完了し、(市)日景線の舗装補修を実施しています。
- 花岡地区の都市計画道路は、整備率が低くなっています。

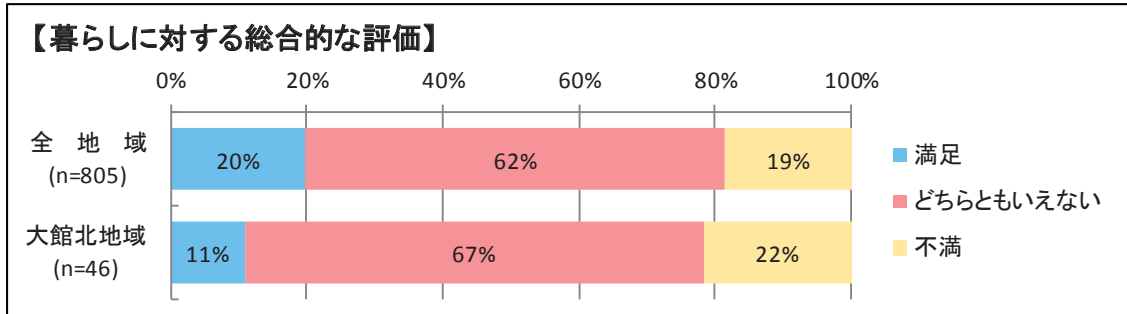
【まちづくり活動】

- 釈迦内・花岡・矢立小学校、北陽中学校では、ふるさとキャリア教育の一環として、ひまわり活動やクリーンアップ、地域との防災活動・行事等の取り組みを行っています。
- 釈迦内サンフラワープロジェクトにより、地域の学校や企業、農家等が協力してひまわりの地域ブランド化が進められ、ひまわりフェスティバルや加工品の販売等が行われています。

【市民アンケート】

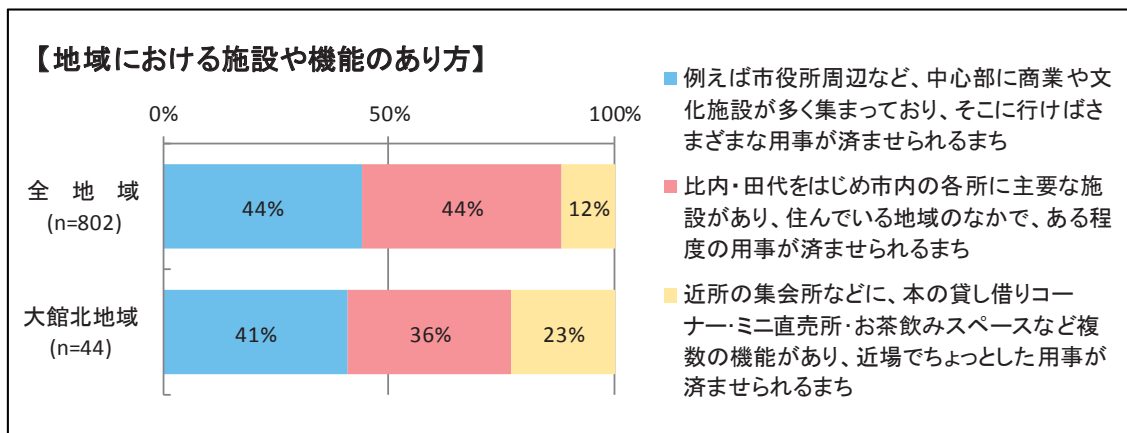
○市民アンケートのうち、全体の約6%が大館北地域（釈迦内・花岡・矢立）に居住している方の回答となっています。市全体の結果と比較し、大館北地域の回答の一部をとりまとめます。

○大館北地域では、本市における総合的な暮らしやすさについて、「どちらともいえない」と回答した方の割合が最も多くなっています。「満足」と回答した方の割合は約1割で、市全体と比較して10%程度低く、満足度が低い傾向にあります。



※端数の処理により、見かけ上の合計が100%とならない場合があります。

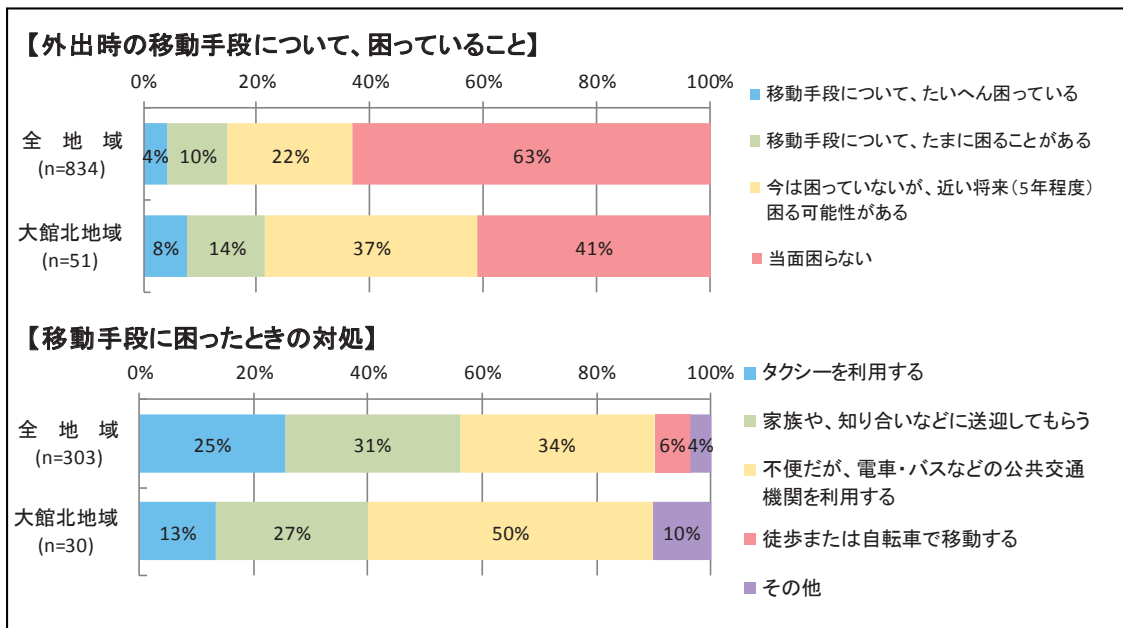
○地域における施設や機能のあり方について、「近所の集会所等に、本の貸し借りコーナー・ミニ直売所・お茶飲みスペース等、複数の機能があり、近場でちょっとした用事が済ませられるまち」を目指したいと回答する方の割合が約2割と、市全体と比較して高いことが特徴となっています。



※端数の処理により、見かけ上の合計が100%とならない場合があります。

○外出時の移動手段に困ることについて「近い将来（5年程度）困る可能性がある」と回答した方の割合が約4割と、市全体と比較して高く、生活する上で移動手段に不安を感じている方が多い傾向にあります。「当面困らない」と回答した方の割合は、市全体よりも20%程度低く、他の地域と比較して最も低くなっています。

○移動手段に困ったときは「公共交通機関を利用する」という回答が5割を占め、市全体と比較して高くなっています。また、「徒歩または自転車で移動する」という回答は0%となっています。



※端数の処理により、見かけ上の合計が100%とならない場合があります。



写真 釈迦内サンフラワープロジェクト

(2) まちづくりの課題と方針

矢立峠や長走風穴高山植物群落等、歴史ある自然が地域固有の景観を形成し、豊富な水と温泉、秋田杉天然林等といった貴重な資源が存在します。リサイクル産業や、地域をあげてのひまわり畑づくりも盛んとなっています。

市民ワークショップにおいては、さまざまな年代の市民が楽しく交流し、笑顔で生き活きと暮らせるまちにしたいという意見が挙げられました。

水と緑の資源を守り活かしながら、釈迦内サンフラワープロジェクトをはじめとするふるさとキャリア教育等を通じ、さまざまな年代の住民が気軽に集い、交流する場づくりが必要となっています。

これらを踏まえ、将来像を「多世代が気軽に交流できる住みよいまち 大館北地域」と掲げ、全体構想で定めた5つの柱のうち、地域に関連する4つの柱についてまちづくりに関する課題と方針をとりまとめます。

<大館北地域が目指す姿の概要>

現況・課題			
【土地利用】	【地域の力】	【資源】	【機能】
<ul style="list-style-type: none"> ・北の玄関口としての役割が求められる。 ・産業の振興が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郊外部の集落における日常生活サービスの確保等が懸念。 ・住まいが土砂災害危険区域に近接。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史に育まれた自然の保全と活用が求められる。 ・観光拠点の形成が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス性の向上が求められる。 ・都市計画道路の整備率の向上が求められる。

大館北地域 将来像

多世代が気軽に交流できる住みよいまち 大館北地域

まちづくりの方針

1	土地利用がもっと充実する	計画的な土地利用を推進し、立地等を活かした産業や流通機能の振興・充実を図ります。
2	もっと地域の力を活用する	ふるさとキャリア教育の取り組みを広げながら、郊外部を含む地域全体において、安心して暮らし続けるための地域づくりを推進します。
3	もっと資源をつなげる	歴史に育まれた豊かな自然を保全しながら、多様な歴史・観光資源と連携を図り、観光拠点の形成を目指します。
4	もっと機能をつなげる	公共交通の利便性をさらに高め、交通機能の強化によるアクセス性の向上を図りながら、都市計画道路の見直し・評価を行います。

＜4つの柱に基づくまちづくりの課題と方針＞

1 土地利用がもっと充実する

【課題】青森県との県境である本地域は、北の玄関口としての役割が求められます。

【方針】

○北部に立地する道の駅やたて峠周辺では、温泉保養施設や秋田杉天然林等の豊かな自然を活かし、北の玄関口として交流拠点の形成を図ります。

【課題】他計画等と連携した計画的な土地利用が求められます。

【方針】

○釈迦内地区には、大館市公設総合地方卸売市場、企業の配送センター等が集積しており、本市及び周辺地域の卸売機能、物流機能を担っていることから、大館北ICを活用した流通商業地としての機能充実を図ります。

○大館駅北側の準工業地域について、立地適正化計画を踏まえ、立地している教育施設と調和する住宅系用途への変更に関する必要性を検討します。

【課題】産業団地の立地における利便性や、鉱山で栄えた歴史を活かし、本市における新たな産業の振興を牽引する役割が期待されます。

【方針】

○釈迦内産業団地は、大館北ICに近接している利便性を活かして物流拠点を目指すとともに、多様な産業の集積を図ります。

○花岡・花岡第二工業団地は、かつての鉱山技術を活用したリサイクル産業の拡大を推進します。

【課題】北部の谷間における平地部等、基盤産業を支える農用地の確保が求められます。

【方針】

○農業の担い手を確保し、効率的な農業生産活動を推進するため、下内川西地区におけるほ場整備事業を進めます。

2 もっと地域の力を活用する

【課題】郊外部等の農林業を支える地域は、地域コミュニティの維持や生活機能の確保等が困難になることが懸念されます。

【方針】

○農林業振興や景観・環境保全等の関係施策と連携するとともに、小さな拠点の形成について検討を進めます。

【課題】居住空間と土砂災害危険区域が近接している箇所があり、対策が求められます。

【方針】

○居住空間と土砂災害危険区域が近接している箇所については、秋田県が行う土砂災害対策に基づき、危険箇所の周知に努め、安全な地域づくりを推進します。

【課題】ふるさとキャリア教育や市民ワークショップを通して、地域づくりについて考える気運が高まり、これらの取り組みを継続・活性化することが求められます。

【方針】

- 釈迦内サンフラワープロジェクトをはじめとした、ふるさとキャリア教育や地域応援プランによる地域づくりを継続し、子どもから高齢者まで、あらゆる年代・立場の人々の交流を推進します。
- 住民同士で身近な相談や助け合いができ、知らない相手ともつながりを深められる、さまざまな世代が気軽に交流することができる場づくりを推進します。

3 もっと資源をつなげる

【課題】長走風穴高山植物群落や芝谷地湿原植物群落等、貴重な自然環境を後世へ残していくことが求められます。

【方針】

- 歴史に育まれた豊かな自然の保全を図りながら、他の歴史・観光資源等との連携を推進し、自然を楽しみ学べる観光拠点の形成を目指します。

【課題】矢立峠の秋田杉天然林は、明治初期に訪れたイギリスの旅行家イザベラ・バードが賞賛しており、この優れた山地景観の保全・活用が求められます。

【方針】

- 秋田杉天然林は、秋田県を代表するふるさと景観でもあることから、関係法令により今後とも保全を図ります。

【課題】広大な田園や豊かな農村資源は、将来の就業の場や、都市と農村の交流により交流人口の拡大が見込まれる場として期待されます。

【方針】

- 集落を取り囲む山林風景や河川沿いに広がる田園風景は貴重な資源となっており、市民の身近な原風景として、積極的な保全・活用方法を検討します。

4 もっと機能がつながる

【課題】周囲の山林からは中小の清流が流れており、良好な景観を維持・保全しながら、住みよい住環境の形成が求められます。

【方針】

- 生活排水処理施設等の普及により、豊かな水源や清流を保全し、水を大事にするまちづくりを推進します。
- 狭あい道路の解消、除雪対策等の促進を図り、快適な住環境の形成を目指します。

【課題】青森県との県境である本地域は、交通機能の強化によるアクセス性の向上が求められます。

【方針】

- 地域の産業振興や観光交流、生活の高速交通基盤となる日本海沿岸東北自動車道の利用を促進します。
- 主要な都市と連結する高速交通体系の構築や、大館北ICを活用した流通拠点の形成を図ります。
- 釈迦内PAは、広域防災やパーク＆ライドによる観光等、さまざまな拠点機能としての活用を検討します。
- 豊かな自然レクリエーション資源を有する田代地域とのアクセス強化を図ります。

【課題】花岡地区における都市計画道路の整備率の向上が求められます。

【方針】

- 長期にわたって整備が進んでいない都市計画道路については、必要性や事業実現性を評価し、継続・変更・廃止について計画の見直しを進めます。

【課題】市民アンケートでは、「移動に困ったときは公共交通機関を利用する」と回答した方の割合が5割となり、市全体（約3割）と比較して高くなっています。高齢化の進行に伴い、公共交通の利便性をさらに高めていくことが求められます。

【方針】

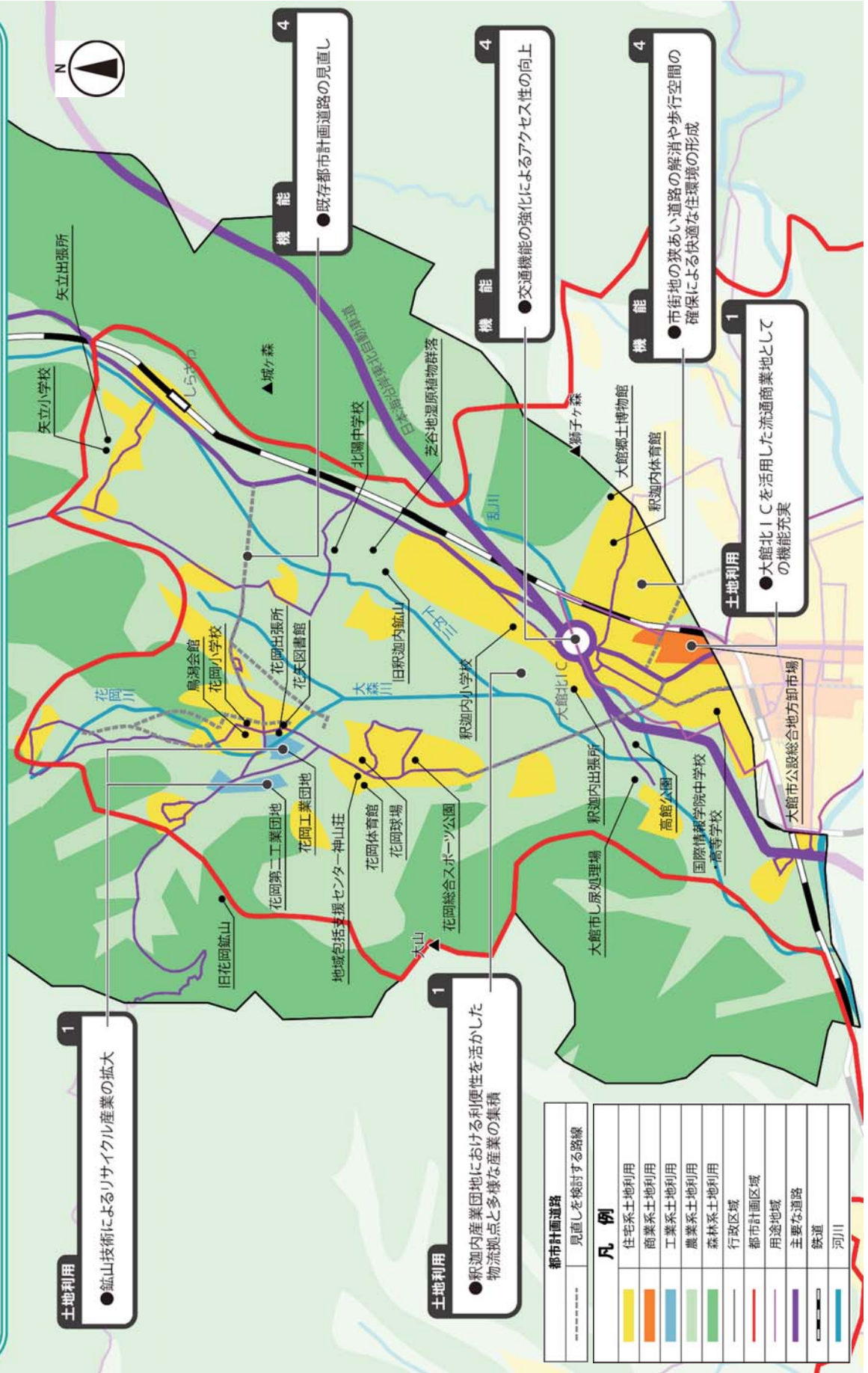
- 公共交通に関する情報を提供するツールを作成しホームページで発信する等、利用者への周知を推進し、公共交通機関にアクセスしやすい環境づくりを行います。
- 白沢駅や陣場駅等、交通結節点における機能の向上を図り、公共交通による移動の利便性を高めます。

【課題】市民ワークショップでは、冬季に安全に通行できる歩道や、コミュニティバスによる交通網の確保に関する意見が挙げられています。

【方針】

- 市街地における狭あい道路の解消や、歩行空間の確保を推進し、冬季でも安心して生活できる地域づくりを目指します。
- 今後、行政だけでは公共交通の維持・運営が困難と予想されることから、地域と行政が連携し、多様な主体による交通サービスの導入について検討します。

大館北地域のまちづくり方針（拡大図）



コラム ～未来の日常をイメージしよう～

歴史ある自然に恵まれ、ふるさとキャリア教育による釈迦内サンフラワープロジェクト等の取り組みが活発な大館北地域では、10年後にどのような暮らしをしているのでしょうか？
市民ワークショップで得られた意見を踏まえながら考えてみましょう。

- ・地域の課題を自分たちで解決する意識があることが、地域づくりの前提！
- ・ひまわりでSNS映えを目指す等、資源を活用していきたい
- ・笑顔で生き活きと、気軽に住民同士が交流できる住みよい地域にしたい

「**地域通貨等の仕組みを通じ、知らない相手ともつながり合える地域づくり**」が
実現できた未来における日常を、具体的にイメージします。

○住民同士の助け合いが充実！

- ・困り事や相談事を共有し、住民同士で助け合う仕組みがつくられており、安心して暮らせる地域として評判になっている。例えばパソコンを使うことが難しい人に代わって書類を作成したり、しばらく外出する際にペットの餌やりをお願いしたり、お互いに得意なことを補い合いながら生活できている。
- ・直接顔を合わせて話す場はもちろん、掲示板等、インターネットを活用した助け合いの場づくりも進められており、気軽に情報を共有することができる。
- ・冬季の除雪に悩んでいたが、ハチ公スノーレンジャーの取り組みがさらに広がり、一人暮らしのお年寄り等の大きな助けとなっている。

○ゆとりある暮らしの実現！

- ・きれいな水や温泉に癒やされ、自然の中を散歩し、庭づくりやサークル活動に参加するような、元気で生きがいを持つ暮らしが実現できている。
- ・地域を出なくてもやりたい仕事に就け、ワークライフバランスのとれた生活を目指し、一人ひとりが地域に根ざした働き方について意識している。

○ひまわりを活かした地域づくり！

- ・釈迦内サンフラワープロジェクトによる地域のブランド化が進められ、ひまわりフェスティバルは多くの人で賑わっている。取り組みは全国からも高く評価され、多くの媒体で紹介されることで、地域の知名度がさらに高まっている。
- ・プロジェクトに携わった子どもたちは、地域資源から特産品や仕事を生み出すことを学び、この経験を将来の就職や起業に活かすことができている。

○地域の宝物がさらに輝く！

- ・矢立峠を歩く歴史まち歩き、温泉や豊かな自然風景等を求めて、たくさんの人々が地域を訪れている。
- ・ふるさとキャリア教育の取り組みがさらに広がり、子どもも大人も地域づくりについて考え、困り事を解決するために力を合わせるという意識が高まっている。
- ・全国的に秋田犬の人气が高まる中、秋田犬に関連した催しが行われる等、犬都記念公園ドッグランが賑わいの場となっている。